

2016年度第1回 国際協力の分野における「ワークライフバランス」  
ワークショップ結果概要

日時：2016年7月31日（日） 13:00～17:00

場所：JICA市ヶ谷ビル 国際会議場

テーマ：「国際協力業界でイクボスを増やすために」

講演者：

油谷 百百子氏

（パシフィックコンサルタンツ株式会社 戦略企画統括部 広報室長）

江島 真也（JICA企画部長）

参加者人数：28名

【内訳】

男性12名、女性16名

学生：6名 社会人：14名 不明：8名

【アンケート】

回収数：21名（回収率：75%）

評価 大変良い：10名、良い：10名、無記入：1名

【プログラムの流れ】

前半は、講演者2名による報告、参加者との質疑応答を行い、後半は、IAF-J（国際ファシリテーターズ協会日本支部）のファシリテーションの下、グループディスカッションを実施。なお、当日のアジェンダは別添1のとおり。

【まとめ】

油谷氏は、「脱・長時間労働」を目指して同社が取り組んだ「働き方改革」の実例を紹介。管理職層の意識改革や生産性の向上に実際に効果が現れた各種取り組みは、国際協力業界でも参考にできるプロセス・工夫が多かった。

江島部長からは、職場における「イクボス」の重要な視点、国際協力業界におけるWLB上のアドバンテージの報告があり、SDGs<sup>1</sup>に絡め、「持続可能な人生を自分自身も送ろう」というメッセージを伝えた。

後半のグループディスカッションでは、「イクボス」をキーワードに、効率化・生産性の向上に向けて今までの価値観や仕事をどう見直すか、WLBの実現に向けて、トップの意識改革や管理職の理解促進を図るためにはどうしたら良いか、また国際協力業界の特異性はあるものの、WLBを考える上では、自分自身がどん

な人生を歩みたいかが基軸となり、「持続可能な人生」に向けてどのような働き方を自分が選択するかについて参加者が考える好機となりました。

#### 【結果概要】

・パシフィックコンサルタンツ株式会社が経営戦略の一つとして位置づけ、本格的に取り組んだ「働き方改革 WLB 888 プロジェクト<sup>ii</sup>」はNHK クローズアップ現代などでも取り上げられ話題となった。

・油谷氏から報告のあった実例としては、例えば、

- ① 脱メール（原則は口頭で、急がないものはグループ会議で共有）＝WORK DIET の一例
- ② 管理職層への意識改革を図るための研修の名称を「WLB 推進研修」から「長時間労働リスク研修」に変更
- ③ 全社一斉ノー残業デーに向けて、社長や各事業本部長の写真を掲示した「帰れ」ポスターの作成 等が挙げられる。

・同社の取り組みの特徴は、3年間のプロジェクトで、最初は小さいグループ単位から、徐々に室、基幹本部に広げる横展開を図ったこと、また同社のみにとどまらず、発注者・同業他社を巻き込む取り組みへと発展させたことである。（建設コンサルタント業界の「一斉ノー残業デー」）

・「一斉ノー残業デー」実施前には、業界紙や一般紙に掲載してもらうことで、業界等への周知を図った。

・働き方改革の取り組みにより生産性の向上に効果が現れ、取り組み前より契約高（1.3倍↑）、生産性指標（1.5倍↑）、年間累計平均残業時間減と明らかなプラスの効果が見られた。また取り組み後の社内アンケートでも、コミュニケーションの活性化→仕事の効率アップ→働きやすい雰囲気を感じている社員が多数いることが分かった。なお、この取り組みはNHK クローズアップ現代や各種業界紙、週刊誌などに掲載されたことで広報効果も大きく、採用活動の効果への期待や従業員の意識向上にもつながっている。

・継続性のある自発的な働き方見直しのために、「インセンティブの付与」「定量的指標、定性的指標の両輪で示す」「好事例の共有」「残業削減の視点だけでなく、今の生活を見直し、新たな生き方へと繋がる活動であることを皆に実感してもらう」ことが重要。

・江島部長は「イクボス」とはすなわちWLBであり、大事なことは職場の多様性への配慮とWLBへの理解、適材適所に人材を配置すること、業務が空いている時にまとめて休暇を取るなど、1年を通じて仕事とライフのバランスを考えることなどが重要と報告。また国際協力業界ならではの発想として、「WLBの実現

はSDGsの達成にもつながる」(自分自身が持続可能な人生を送っていなければ、世の中が持続可能な社会とは言えない。)といった視点から、SDGs 18番目のゴールとして、「持続可能な人生を送ろう」といったメッセージを伝えた。

・WLB実現に向けて、国際協力業界には次のようなアドバンテージがある。「男女比のひずみが比較的小さい(JICAも女性職員が増加。職場内で男女比のバランスが取れつつある。)」 「仕事の舞台が海外であるため、日本の常識は世界の非常識であることを体感。(基本的に、残業はしない。途上国に限った話ではないが、日本よりオンとオフの切り替えが上手。)」 「途上国(在外赴任)の方がWLBを実現しやすいメリットがある(職住接近で帰宅が早い、家族と過ごす時間が長くなるなど)」 国際協力業界でキャリアを目指す方達は、これらのアドバンテージを是非活用してほしい。

・いずれは「イクメン」「イクボス」が普通に存在し、WLBを意識しないことが普通になる社会が望ましい。また、自身の経験からも、子育ては楽しい。子どもが大きくなるのはあつという間。「義務」「分担」などと思わず、積極的に携わらないと後悔する。

・「持続可能な人生」は参加者の印象に残り、アンケートや振り返りシートにも記載が多かった。No one left behind (SDGsのキャッチフレーズは、誰一人として取り残さないこと。人間中心の開発。それは、あなた自身の人生にも言える。)の意識が重要。

・後半では4つの問いを設定し、各問いについて、途中メンバーチェンジを行いながら、グループディスカッションを実施した。ディスカッションでは、IAF-Jのファシリテーションの下、ORID<sup>iii</sup>のフレームワークを用いた振り返りを実践。ディスカッション各ラウンド毎に、その内容を振り返りながら各自「ORID振り返りシート」に記入し、終盤では、そのシートに記載した内容をグループ内で共有、グループの話を会場全体で共有する「ハーベスト」の時間を設けた。

・ディスカッションの最後の問い「私達はどのように取り組みたいでしょうか?」に対しては、参加者から「まずは自分の意識(行動)改革」「WLB実現に向けて、上司や経営層とも話をできるようにしたい」「社内や会社間でグッドプラクティスの共有・意見交換をして、WLBを広めたい」などの声が挙げられた。

・参加者アンケートでは、「1日24時間の限られた時間の効率的な使い方」など、キーワードをいただいた。「社内の研修でも参考にしたい。戦略の立て方など、より具体的な方法を知りたい。」「効率化を今までの価値観の改善にどうつなげるかが重要」「イクボスを考えることで、社員のメンタルケアにも通じることが

発見だった」「持続可能な人生がキーワード。早くイクボスについて話す必要がない社会になってもらいたい」などの声が寄せられた。また、ファシリテーション手法やORIDへの関心も高く、「(メンバーチェンジにより) 同じ意見で固まらず、様々な意見が混ざり合うことでより良い意見交換となった。」「年齢・職業・立場が異なる方々と話せる良い機会だった。」「ORID手法により、議論が整理できて理解しやすかった。」などのコメントがあった。

以上

別添1：アジェンダ（プログラムとスケジュール）  
2：ORID振り返りシート（フォーマット）

i SDGs：「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals)  
<http://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/index.html>

ii 1日24時間をwork/yourself & your family / your healthに分け、「自分はどう働きたいのか」に立ち戻り、働き方にメリハリをつけることを意図した社内プロジェクト。狙いは、単なる残業削減プロジェクトではなく、モチベーションの向上とそれによる労働生産性の向上。

iii ORID：Objective, Reflective, Interpretive, Decisional

ディスカッション時の各問いの内容については、別添2「ORID振り返りシート」のとおり。

2016年7月31日

2016年度第1回国際協力の分野における「ワークライフバランス」ワークショップ

～国際協力を仕事にする/したい私たちがいきいきと働きやすい未来を考える～

JICA 国際協力人材部では、「ワークライフバランス」を実現しながら働き続けるための環境整備に向けて、セミナー/ワークショップを連続で実施しています。

昨今、育児・介護に留まらず、多様な課題を抱える社員の活用が企業の人材確保の観点からも重要になってきており、「ワークライフバランス」の実現を推進する企業・組織が増えています。その推進に向けて、経営層、管理職の意識改革や取組みが重要視されつつあり、部下の「ワークライフバランス」に配慮し、組織の業績もあげていく上司（経営者・管理職）すなわち「イクボス」が注目を集めています。

国際協力業界においても、働き方改革や長時間労働の削減等について取組みは進められているものの、海外赴任・出張や時差がある地域との連絡など「ワークライフバランス」を実現するための課題が多く存在します。

「イクボス」が目指す経営戦略や国内企業の先進的な取組み、JICAの取り組みを知った上で、国際協力業界の現状や組織・自身が抱える課題を参加者の皆さんで考えたいと思います。

プログラム前半では、講演者2名による報告、質疑応答を予定しており、プログラム後半では、グループディスカッションを予定しています。

なお、本日のワークショップでは、下記のテーマを設定しています。

【テーマ】「国際協力業界でイクボスを増やすために」

本日のプログラム (13:00 - 17:00)

時間	プログラム内容
13:00	開会 (JICA 国際協力人材部)
13:10	講演者プレゼン、バズセッション、質疑応答、
14:35	休憩
14:45	ワークショップの説明、アイスブレイク
15:05	参加者ディスカッション (第1ラウンド)
15:30	参加者ディスカッション (第2ラウンド)
15:55	参加者ディスカッション (第3ラウンド)
16:20	休憩、ギャラリーウォーク
16:35	最終ラウンド、ハーベスト
16:50	講演者からのメッセージ、クロージング
17:00	閉会

\* 会場後方に、軽食と飲み物を 14 時以降用意します。休憩時間等に、ご自由にご利用下さい。

\* 閉会后、参加者アンケートへの記入をお願いします。

講演者プロフィール

◆油谷 百百子 氏

(パシフィックコンサルタンツ株式会社 戦略企画統括部 広報室長)

【略歴】1996年パシフィックコンサルタンツ株式会社に入社し、総務、人事に携わる。2002年に出産し、育児休業を取得。2003年に復職後、総務、労務に携わるが、2009年にワークライフバランス講演会を労使共催で開催したのをきっかけに、ワークライフバランス・プロジェクトを自ら企画。2010年から労務部の職務に加え、社長直轄のワークライフバランス推進事務局としても活動。2012年に管理職となり、2013年新設された広報室の室長となる。中2男児の母。

◆江島 真也 (JICA 企画部長)

【略歴】1983年海外経済協力基金(OECF)(当時)採用。以後、国際協力銀行(JBIC)を経て現JICAにて勤務。その間、東南アジアおよび南アジアを中心にODA事業の企画・実施・評価に従事。四度の海外勤務のうち独身時を除く3か国(フィリピン、スリランカ、インド)は家族帯同で勤務。現在の所属先のJICA企画部でもワークライフバランスを推進中。大学4年生(男)と同1年生(女)の父。

所属： 社会人・学生（どちらかに○をして下さい）

JICA/IAF Japan

2016.7.31

2016年度第1回 国際協力の分野における「ワークライフバランス」ワークショップ

ORID による振り返りシート

<b>O</b> bjective question 講演者2名の話を聴いて、どのような点が印象に残りましたか
<b>R</b> eflective question 講演者2名の話を聴いて、あなたはどのように感じましたか
<b>I</b> nterpretive question 国際協力業界に「イクボス」を増やすにはどのようなことが必要でしょうか？
<b>D</b> ecisional question 私達はどのように取り組みたいでしょうか？

